

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

50 分の授業に集中

先週末から梅雨の中休みで、連日晴天の暑い日が続いており、30 度以上の真夏日を記録する日もありました。体がまだ暑さに慣れていません。熱中症に十分注意してください。

緊急事態宣言が 6 月 20 日まで再延長されました。学校ではこれまでの教育活動を継続しますが、大阪府では依然として病床使用率はひっ迫しており、予断を許さない状況です。

1 年前を振り返ると、得体の知れない新型コロナウイルスに、多くの人が危機感を持って対応していました。しかし 1 年が経った今では、「コロナ慣れ」で危機感が薄れてしまった人も多くみられます。昨年に一度話をしたことがあります。これは「**正常性バイアス**」(校長室だより 47 号・54 号参照) がはたらくことも一つの原因です。自分が感染するのではないかというストレスから自分を守るため、「自分は大丈夫だ」と思う心理です。皆さんは、これまで感染予防策をしっかりと実行してくれています。本当にありがとうございます。これから暑くなり、マスク着用がうっとうしくなりますが、引き続きよろしくお祈りします。

さて、中間考査も終わり少し気が緩んでいませんか。「**しっかり 50 分の授業に集中する**」というのを改めて心掛けて欲しいので、今号では落語に関係する以下の話題を紹介します。

少し古い話ですが、平成 10 年 12 月に長野県飯田市で「立川談志独演会」が開催されました。立川談志さんは 10 年近く前にお亡くなりになりましたが、破天荒な振る舞いや、歯に衣着せぬ物言いでも知られていました。今も放送されている、日曜夕方の長寿番組「笑点」を立ち上げ、大喜利の初代司会者を務めました。また、参議院議員として 1 期 6 年活動されました。

落語会当日は約 260 人の聴衆で満員でしたが、会場中央に座った客の一人が、始まって間もなくして居眠りを始めました。談志さんは小咄(こぼなし)をしながら「きょうは寝ている客がいるねえ」などと何度も起こそうとしたが居眠りは続きました。談志さんは「やってられないよ」と高座を降り、落語会が中断しました。中断後、主催者側が男性に注意したところ、「居眠りのどこが悪い。金を払っているからいいだろう」と主張したため、「そんな考えをする客はお客として扱えない。金を返すから帰ってくれ」と退場させました。

これに対し、追い出された人が裁判を起こしました。追い出された人の主張は「俺が寝ていたって周りの人間に迷惑をかけていないんだからほっておいてくれたらいい。なぜ、追い出されなくてはならないのか」「公衆の面前で追い出されて名誉を傷つけられた」というものでした。

この裁判の判決は、原告の敗訴。つまり、退出させられた行為は違法でないということです。裁判官の判断は以下の通りです。『あなたはいびきをかきことなく寝ていたのだから、誰の迷惑にもなっていない。落語家なら人に寝られるような芸をするなど主張する。しかし、あなたが寝ているということにより落語を演じている人の意欲がそがれ、他の観客の落語を楽しもうとする意欲もそぐことになる。』居眠りは、その程度によって演者の意欲をそぎ、また、他の観客の盛り上がる意思をそぐから、演目続行の重大な障害になるということです。

このことを授業に当てはめてください。先生と生徒の間に互いにしっかりと教えようという熱意と聞こうと言う姿勢が一致した時に良い授業が生まれます。しかし、いくら頑張ろうとして先生が教室に行っても授業中に寝られるとその意欲がそがれてしまいます。

「自分はしゃべらずに寝ているだけ。誰にも迷惑をかけていない」と言う人もいますが、寝ることで、真面目に授業を受けようとしている人たちにも大きな迷惑をかけていることになります。

授業で寝ていても周りの人に迷惑をかけていないという理屈は世間では通りません。**迷惑かどうかを判断するのは周りの人**なのです。今一度、授業に臨む姿勢を考えてみてください。